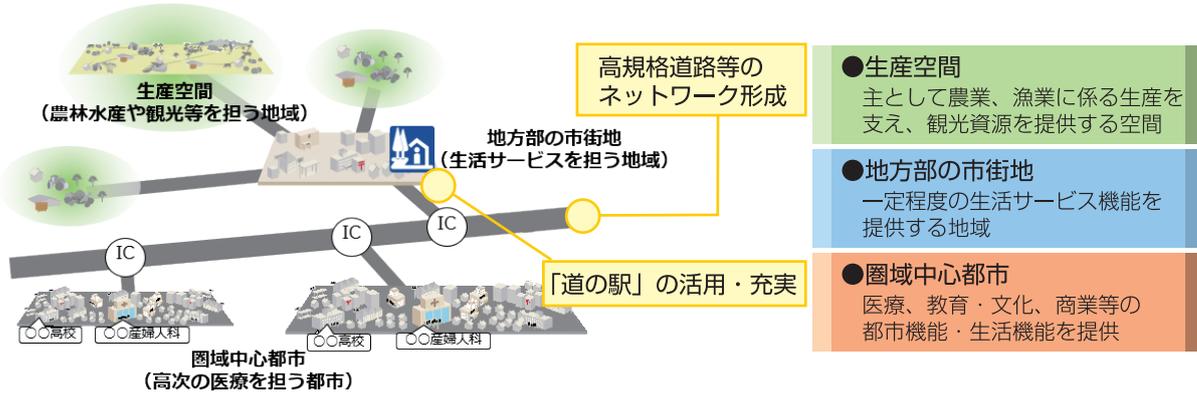


北海道型地域構造の保持・形成に向けた定住・交流環境の維持増進

第8期北海道総合開発計画（平成28年3月29日閣議決定）に基づき、「世界の北海道」のキャッチフレーズを掲げて、北海道の強みである「食」と「観光」を担う地方部の「生産空間」を支えるための重層的な機能分担と交通ネットワークの強化、農林水産業の競争力・付加価値の向上、世界水準の観光地の形成等に重点的に取り組みます。

また、令和2年度に行われた「第8期北海道総合開発計画中間点検」を踏まえつつ、計画が目指す姿や行動の指針となる数値目標を念頭に置き、それを実現するための課題を明らかにしたうえで、引き続き施策を推進していきます。

北海道型地域構造のイメージ：三層から成る「基礎圏域」



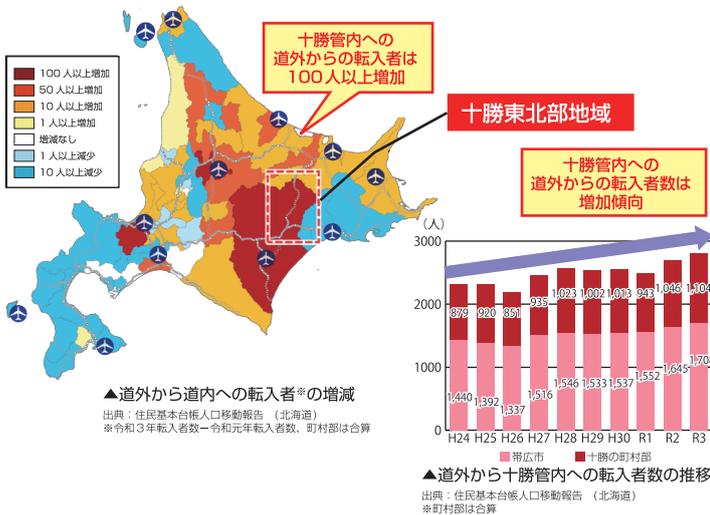
「第8期北海道総合開発計画中間点検」の点検結果等については、「北海道開発分科会」にて審議・公表を行っております。以下の二次元コードより、審議結果をご覧ください。



「国土交通省 北海道開発分科会」
HPへリンク
https://www.mlit.go.jp/policy/shingikai/s102_hokkaido01.html

分散型の国土づくりを先導する交通ネットワークの整備

北海道内外の人流や物流の拡大、地域・拠点間の連携機能を強化するため、高規格道路ネットワークの構築を推進しています。近年、十勝東北部地域（本別町、足寄町、陸別町）では、地方創生の取組として、「とちか東北部移住サポートセンター」を開設し、移住・定住の促進に取り組んでおり、道外におけるイベントや説明会では、高規格道路の整備による高次医療施設等がある圏域中心都市や拠点空港とのアクセス性の良さをアピールしています。北海道最大の食料供給地域である十勝地域で、近年、新規就農を目的とした道外からの移住者が増加傾向にあるなど、高規格道路ネットワークの整備により、道内各地の生産空間の維持・発展に寄与する定住・交流の促進を支えています。



十勝東北部地域における移住・定住の促進に向けた取組事例

【陸別町の取組】
・新規就農者を支援する「奨励金制度」や「営農実習」などの制度が充実
・令和3年10月時点で、2組が制度を活用し、酪農家として新規就業を目指している

【足寄町の取組】
・「北海道UIJターン新規就業支援事業」を実施、東京圏からの新規就業による足寄町への移住・定住を推進

【本別町の取組】
・農業等の担い手不足解消を目的とした、移住促進に向けた対策を推進
・令和2年度移住者22名のうち6名が農業に従事

高規格道路整備による移住・定住拡大に期待

北海道横断自動車道 足寄～陸別 令和3年度事業再開

新千歳空港

帯広市

帯広空港

阿寒IC～釧路西IC 令和6年度全線開通予定

釧路市

釧路空港

釧路西IC

阿寒IC

北見市

陸別小利別

陸別IC（仮称）

陸別町

本別町

足寄町

足寄IC

女満別空港

高規格道路

開通区間

事業区間

声
空港へのアクセスは、移住希望者にとって、友人や家族を呼んだり、遠方への移住に対する不安感を抑制できるという点で関心が高いです。当町では、高規格道路の整備による空港アクセスの良さをイベントや説明会でアピールしています。（十勝東北部自治体職員）

北見市暮らしフェア（東京）

「道の駅」の日常生活や地域経営の拠点化

地方部の「生産空間」を支える都市機能・生活機能の維持・確保を図るため、日常生活サービス機能を「道の駅」に集約するなど地域の拠点づくりを支援していきます。「道の駅」の交通結節点化や防災拠点化など、地域の拠点化に向けた多様な取組を推進していきます。

【交通結節点の強化】

高速バスのバス停を設置して、市内循環バス路線への接続により公共交通の利便性が向上。



▲道の駅「羊のまち 侍・しべつ」

【防災機能の強化】

広域的な防災拠点として選定された「防災道の駅」において、BCP 策定や防災訓練など防災機能強化を推進。



▲道の駅「さるふつ公園」

【物流拠点化の推進】

北海道地方部におけるトラックドライバーの長時間労働解消等を目指し、道の駅の中継輸送拠点化に向けた検討を推進。



▲道の駅「もち米の里☆なよろ」

【子育て環境の創出】

親子で滞在しやすい子育て環境創出のため、子育て応援施設の整備を推進。



▲道の駅「忠類」